

第20回  
宇美町  
少年・少女の  
主張大会  
最優秀賞

小学生の部

手話から学んだこと

宇美小学校6年  
西村 佑希子



みなさんは手話を知っていますか。手話とは聴覚に障がいがある方が使う大切なコミュニケーションの手段です。

私は毎週木曜日に「宇美町手話の会」に行って手話を勉強しています。私が手話を勉強するきっかけになったのは、私が3年生の時に耳の聞こえない友達と出会ったことです。友達と友達のお母さんが手話でコミュニケーションをしているのを見て、私は、「その友達と仲良くなりたい、手話ができれば仲良くなれるかな。」と思ったのです。そこで、宇美町手話の会に入りました。宇美町手話の会のみなさんは、いつも優しく丁寧に手話を教えてくれます。

手話は、単語と指文字に分かれています。単語とは例えば「幸せ」、「大丈夫」などです。

指文字とは、「あ、い、う、え、お」などの50音を手や指の形で表したものです。単語と指文字を組み合わせて、1つの文章ができます。聴覚に障がいがある方は、この手話を日常生活で普通に使われています。

9月23日が手話言語の国際デーとなった今、ぜひ手話のあいさつを知ってもらいたいです。一緒にやってみてください。

「おはよう」こめかみにあてた右手こぶしを下ろすと同時におじぎをします。「おはよう」

「こんにちは」立てた人さし指、中指を重ね額の中央にあておじぎをします。この形は時計の十二時を示します。「こんにちは」

「こんばんは」手の平を前に向けて両手を左右から引きよせおじぎをします。「こんばんは」できましたか。

ところで、みなさんのお家に届いている9月の宇美広報にこのことを知らせるリーフレットが入っていました。このリーフレットは手話の手話の会が作りました。私も少し手話の会のみなさんも私も、少しでも手話が見やすいように、わかりやすいように、覚えてもらえようようにしたいとたくさん考えました。印刷が終わってリーフレットが配られた時、とてもうれしかったです。このリーフレットは出口の所に置いてありますので自由におとりください。

宇美町手話の会に行って手話を勉強するようになって、私は町で会う聴覚に障がいがある方に積極的に手話であいさつをするようになりました。また、友達と手話で今まで以上にコミュニケーションがとれるようになってとてもうれしくなり、もっと上手になりたいと思うようになりました。

中学生の部  
負けるな自分

宇美南中学校2年  
永安 珠季

手話はたくさんあって、中にはむずかしいものもあるけど、覚えていくうちに手話がどれだけ大切なものかわかりました。

コミュニケーションのチャンスを広げることのできる手話。皆さんもあいさつの手話などからぜひ覚えてください。

私の名前の「佑希子」の「佑」は「人にべん」と書き、この字は「人の役に立つ」という意味があります。両親が人の役に立つてほしいという思いを込めてつけてくれました。

はじめは友達とコミュニケーションをとろうとして覚えた手話でしたが、勉強していくうちに大切なことを知ることができました。

これからの社会はいろいろな人がおたがいに助け合っている生活できるようなものにならなければいけないと思います。そのために、私は手話の勉強はもちろん、社会に役立つことは何かしっかりと学び、身につけていきたいと思います。

「やめた。どうせできないんだし別にしないでいいや」。常に自分に甘く、目標や自分で決めたことをすぐに諦める人だったので、こんな言葉をいつも吐き出していました。しかし、ある経験から、そんな私はいなくなりました。

私は昨年、宇美南中学校に入学しました。入学当初、小学校と中学校の違いに驚き、全てが初めての連続で、どきどきわくわくしながら毎日過ごしていました。なかでも一番楽しみにしていたのは部活動でした。テニスや卓球、吹奏楽などのた



くさんの部活があるなかで、部活動体験の日も美術部に行きました。するとある日、知らない先輩から、「一緒にバスケットしない？」と誘われました。バスケットのようなチームスポーツなど一度もしたことがない私にとって、運動部に入ることには未知の世界に飛び込むようでした。どうしようかと迷いましたが、体験だけでも行こうかと思い、体験に向かいました。すると、想像していた以上に、バスケットが楽しく、先輩も優しく、良い部活だなと思いました。いつの間にかバスケットに入部しようと思ってる自分がいました。チームでやる楽しさ、仲間や先輩からほめられるうれしさを知り、一瞬でバスケットの虜になりました。

しかし、私の希望はすぐに打ち砕かれました。走るだけのメニュー、よく分からないルール……。私のような初心者には、コートに立つだけで、ドリブルや、ハンドリングの練習など、ただただきつい反復練習をひたすらやらされる毎日でした。指導者からも厳しい指導を受け、バスケットが楽しいと感じる瞬間は全くありませんでした。

新チームになって何か月か経って、周りの友だちとも差が開いていき、自分の未熟さを痛感する日々が続きました。そんな日々を求めているなかつた私は、「私が下手なせいだ、色々な人に迷惑がかかる。怒られるのも嫌だ。もう部活やめたい」と思うようになりました。周りの友だちも、「もう練習がきつい、やめたい」という言葉を吐き出すようになり、私も口には出さないようにしました。そんなある日、先輩から、「みんな部活やめたってしても何も得せんよ。最後までやってみてみないか。色々な先輩が頭をよぎりました。1つ上の先輩が一生懸命に目標に向かってたひたむきに走っている姿を思えば、自分はずかしくなりました。ああそうか。自分はどういうときに簡単に逃げ出すような、そんな人を生かしてあげたいな。情けないなと心の底から思いました。その日から、私は、何が何でも絶対に部活をやめないと決めました。

私はプロのバスケット選手になるつもりもないし、高校でバスケットをやるつもりもありません。これから先にバスケットに打ち込めば二度とないと思います。しかし、例え将来に直接つながるわけではなくても、今私が一生懸命にバスケットに取り組んでいるこの姿勢や気持ちが、将来の私を救うのではないかと、そう思うようになったのです。ここで弱い自分に負けたら、たぶん一生弱い自分のままだと、そう思います。最後の最後まであと8か月。

8か月後、部活を引退した私に一体何が残ったのか、それは誰にも分かりません。ただ、バスケットをする最後の日、必ず将来の私にとってプラスになるものが残ると信じて、目の前のバスケットボールをただひたむきに追っていきます。

「社会教育課 社会教育係 066-2600

宇美町立こども療育センター  
すくすく だより

個別療育(発達相談・療育訓練)を行っています

宇美町立こども療育センター「すくすく」(貴船2-40-2) ☎934-3933

「こども療育センターすくすく」では、専門スタッフ(臨床心理士・言語聴覚士・作業療法士)と保育士が、「個別療育」と「集団療育」を行っています。今回は「個別療育(発達相談・療育訓練)」を紹介します。

個別相談や個別療育について

- 臨床心理士がお子さんの様子を伺い、困っている事について、1人ひとりにあった支援と一緒に考えていきます。必要に応じて、発達検査を行い今後のアドバイスをいたします。
- 言語聴覚士がことばの遅れや不明瞭な発音・吃音などで心配なお子さんについて相談を受けます。舌の動かし方や、口の開け方などを見て具体的なアドバイスをいたします。
- 作業療法士が歩く・登る・走るなどの運動の基礎づくりをします。

臨床心理士からひとこと

子育てって、楽しさ・喜びなど良い事だけではありません。心配や不安・迷い・ことばが遅い・言うことを聞かない・目を離せない・興奮しやすいなど、手がかかる事があればなおさらです。逆に一人遊びをしていて全く手が掛からない・親以外の誰にでも着いて行く・親子のふれあい遊びを求めないなど、親御さんから見ると気にならない行動もあるのではないのでしょうか? 心理相談では、このような子どもの気になる面を、発達や環境面から保護者の方と一緒に把握し健やかな成長を促しています。



▲個別療育を受けて こんなに表情豊かになりました



▲言語聴覚士による学習会

言語聴覚士からひとこと

「ことば」は子どもの成長の中の一側面であり、身体や心などの発達と影響し合いながら育ちます。発達段階に応じた生活や遊びの中で自己発揮し、さまざまな発見を生き生きと伝え合うことが、ことばを育みます。言語相談ではお子さんの成長段階に合った関わりや支援方法をご家族と一緒に考えています。ことばの理解や発音など、ことばによるコミュニケーションのご心配があればお気軽にご相談下さい。

お子さんの発達について

- ① ことばの遅れ
  - ② 運動面がゆっくり(歩き始めが遅い)
  - ③ 激しいかんしゃく
  - ④ 落ち着きがない
  - ⑤ ことばが不明瞭
  - ⑥ 夜眠れないなど
- 気になる事があれば、ご相談ください。

こども療育センター  
すくすく

- ▶対象 0歳～就学前の子ども
- ▶時間 10時～16時
- ▶予約方法 電話
- ▶費用 無料

お気軽にご相談ください